

第 1 回県央地区病院情報連絡会（旧 WG）結果概要

日時：令和 7 年 7 月 7 日（月）19：00～21：00

場所：海老名市文化会館 大ホール棟 3 階多目的室

1. 地域医療構想「2025 プラン」の変更について

相模台病院より説明が行われた。5 月より一般病棟を減らし、地域包括医療病棟を 39 から 60 棟へ変更をおこなった。60 床全面稼働は、8 月を予定としているが、看護師等の人材が不足しているため、延期となります。事後承諾となったが承認いただきたいと説明があった。

<主な意見>

地域として理解している。

2. 地域医療構想「2025 プラン」変更後の状況報告

○大和市立病院

2023 年 4 月地域包括ケア病床 51 床を急性期病床に転換。転換後の報告。

転換後、新型コロナ・インフルエンザの感染症患者を多く受け入れることができた。

救急車の受け入れが増加。入院患者増との説明があった。

<主な意見>

努力なされている。

○綾瀬厚生病院

増床公募決定により、回復期リハビリテーション病棟 14 床増床をおこなった。現満床状態となっている。看護補助者に不足が生じたため、急性期看護補助体制加算を 25：1 から 75：1 に変え、約 80 万円減収となったが、回復期病床を埋めることで十分カバーできている。

<主な意見>

特になし。

○座間総合病院

HCU8 床を転換するにあたり工事等の報告を行った。また、看護師等の離職が問題となっており、運用ができないというになっている。人材確保に対する取り組みを考えている。

○湘南厚木病院

障害者病床への機能変更の報告がなされた。変更したことにより、入院患者数が増加し、現在（R7.7）6 千人台の半ばとなっている。障害者病棟の利用は、院内患者が多い。

<主な意見>

特になし。

3. 骨太の方針と病床の取扱について

医療企画課より資料により説明が行われた。

<主な意見>

・ 病床数適正化支援事業で 20 床削減した分は、地域医療構想と関係ないということであれば 20 床地域内で配分してもよいのではと考えているがどうか。

→(医療企画課) 国の考え方としてはそうかもしれないが、病床過剰な地域で病床を削減した場合の地域内での再配分は現段階では県としては想定していない。

・ 例えば横浜などの病床が不足している地域で、病床数適正化支援事業で減らした分をまた募集するのか。病床を削減する一方で、病床を配るとするのは矛盾していないか。

→(医療企画課) 病床事前協議と病床数適正化支援事業の考え方は矛盾しているところがある。しかし国としては、病床数適正化支援事業はあくまで地域医療構想とは関係なく、喫緊の経営状況に関する支援ということで実施している。

県としては病床数適正化で削減した病床を含めて事前協議で配分することは矛盾していると考えため、病床数適正化で削減した病床は事前協議では含めないなどの工夫をしていくことが必要だと考えている。

・ 一次内示で余った差額の分はどうするのか。

→(医療企画課) 国に確認したところ、一次内示の算定要件を踏まえて配分してほしいとの回答があったため、他の医療機関への配分は難しく国へ返還の可能性もある。

・ 離職率 10% 越えの病院がちらほらある。新たな病床を整備する際の人材確保について大変だと思いますので県のほうでも応援をお願いしたいと思います。